



## 問 県道幸手・境線バイパスの進捗状況について

### 答 暫定開通を平成32年度末と見込む

現県道幸手・境線は、大型車の通行で地震かと思われるような振動があります。新たに整備されますバイパスの振動や騒音、交通安全対策について伺います。

問 開通の見込みは。

都市建設課長 元栗橋浮戸より幸手市内の下吉羽・幸手線までの暫定開通を、平成32年度末と見込んでいます。

問 騒音・振動、交通安全対策は。

都市建設課長 バイパスでは車道中央部に雨水管渠のマンホールを設置、その他の地下埋設物はおおむね歩道の下に埋設されているので、現県道と比較すると、埋設物の設置場所が異なるため、騒音・振動は軽減されるかと考えています。

法定速度は、バイパスでは両

側に歩道が設置され60キロですが、開通後の状況により、住宅街の区間について法定速度の制限見直し対応を境警察署にお願いすることも検討していきます。

信号機は、原宿台地内の町道8号線との交差点部分に1カ所設置されています。少なくとも2カ所の信号機の設置を既に境警察署に要望しています。

## 問 空き家・空き地の現状と利活用について

### 答 先進地の事例も参考に、新たな施策を進めたい

先進事例を踏まえ、町の今後の方針を伺います。

問 現在の空き家・空き地、利活用は。

生活安全課長 市街化区域では、空き家戸数26戸・約2,950㎡。空き地61筆・約3万1,844㎡。不動産業者等への情報提供、全国空き家・空き地バンク制度の活用等を推進したいと考えています。

問 東久留米市氷川台自治会の事例について。

生活安全課長 住民の高齢化によるコミュニティの衰退、空き家・空き地の増加から、自治会が、地域の資源としてさまざまな用途に利用し、地域を活性化しました。

問 栃木市の空き家バンクの事例について。

生活安全課長 空き家の有効利用を促進する事業。利用可能な空き家の掘り起こしが必要なほど効果が上がっているようです。

問 まちづくりをどうするか。

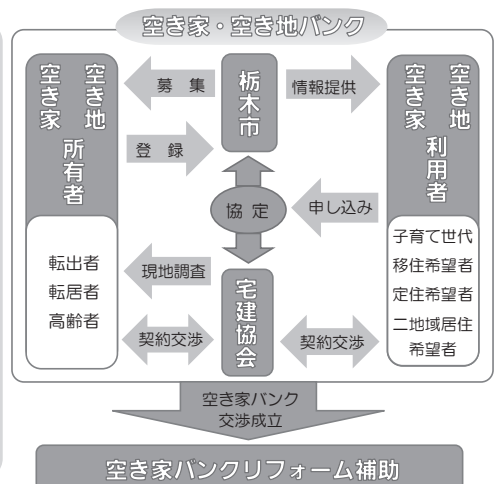
町長 人口減対策としての住宅確保に、空き家の有効活用、市街化区域の空き地を考えていきます。

空家等対策計画の推進とともに、先進地の事例も参考に、空き家等の活用に関する新たな施策を進めたいと考えています。

#### 栃木市の「あったか住まいるバンク」事業

【目的】再利用可能な空き家は空き家バンクを通して売買・賃貸を促進し、「負債産」から「富動産」への転換を図る。

【年次】平成25年度～  
 【費用】1,200万円（空き家対策総合支援事業）  
 【概要】  
 ・登録した空き家の情報を市のホームページで公開。  
 ・成約すると「バンクリフォーム補助金」が利用可能。  
 ・リフォーム補助50万円 家財処分補助10万円  
 【評価】  
 ・非常に好調であるが、利用者の急増により、登録物件が不足気味であることから、利用可能な空き家の掘り起こしが必要。



出典：栃木市ホームページ